



## TNVN 創立25年を迎える新春の集い



2018年1月28日（日）13時より、JICA東京の会議室をお借りして、〈TNVN創立25年を記念する新春の集い〉が開かれました。

TNVNは1993年12月に活動を始め、会員の皆様のご支援のおかげで、今年、25年目の節目の年を迎えました。

その節目の年に、会員の皆様の記憶に残る行事をと色々検討した結果、日頃の、皆様方のご支援に感謝すると共に、普段、顔を合わせる機会が殆ど無い会員ボランティア同士の相互理解を深める目的で、今回の集いが決まりました。

当日は、22日に降った雪が、未だ、あちこちに残る寒い日でしたが、16団体のボランティア、協力会員、各教室の学習者など50名を超える方々が参加して下さいました。日本語ボランティアの集いに相応しく、TNVNのスタッフを除くと、日本人と学習者の参加者はほぼ半々で、ヨーロッパ、南米、東南アジア、東アジアの国々の学習者が参加して下さいました。

梶村代表の開会の挨拶に続き、TNVNの会員の「かけはし」でボランティア活動をされ、TNVNの運営委員でもある坂本さんが、地元足立区で狂言を習っていらっしゃるご縁で、足立区演劇連盟で狂言を指導されている山下芳子先生と、指導を受けている高橋妙子様、坂本弘一様に狂言を演じていただきました。

山下先生の、狂言についての分かり易い説明や、言葉の発声の仕方の実演、先生の謡をお手本に全員で謡った「盃」、外国人への狂言衣装の着付けなど、飽きない工夫を

凝らした進行で、ボランティアも学習者も、馴染の薄い古典芸能を、身近に感じる事が出来ました。特に「盃」を皆で謡った時は、先生が「盃に向かえば」とお手本を謡った後、参加者全員で先生と同じ様に謡い、「色も猶赤くして」とお手本を

謡った後、同じ様に参加者全員で謡いを繰り返し、最後には「盃」が謡えていました。この方法は、入門・初級の学習者に日本語を覚えてもらう方法と同じで、とても効果的な方法だと、改めて気付きました。

参加者全員で指導を受けた「盃」をご紹介します。節を覚えている方はそれなりに、忘れてしまった方は音読で、謡の発声法を思い出しながら、日本語を美しく表現してみましよう。

「盃に向かえば 色も猶赤くして  
千年の命を延ぶる酒と聞くものを  
きこしめせや きこしめせ 寿命  
久しかるべし」

狂言の後には、IWCの仁村様の乾杯の



狂言の仕草を学ぶ学習者

ご発声で懇親会が行われました。用意しておつまみはあっという間に無くなってしまいましたが、飲み物を片手に、あちこちで話しの輪が出来ていて、懇親会に相応しい雰囲気でした。

思いの外、時の経つのは早く感じられるもので、皆様の話が尽きない中、閉会時間の16時になってしまい、4月22日（日）のTNVNの2017年度総会で、再び、皆様にお目に掛れる事を約束して、お開きとなりました。

最後になりましたが、新春の集いを盛り上げて下さった狂言の山下先生、助手の高橋様、坂本様、そして会員ボランティア、学習者の方々に厚く御礼申し上げます。



懇親会で懇談中



つどい参加者の皆さん

## 「調査報告書・

## 日本語ボランティア活動

## 実態調査」

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 抜粋  
 その1

日本語を母語としない方々で日本語を学びたい人は場所を求めて、地域のボランティア日本語教室を訪ね日本語の学習に励んでいます。

これらの方々の求めに応えるボランティア日本語教室を紹介する目的で1994年から3～4年毎に東京都内各地で活動しているボランティア日本語教室の教室内容を掲載する冊子「ボランティア日本語教室ガイド」を発行してきました。今回は2014年に続いて8回目となります。

「ガイド」発行に当たりこれまでに掲載している教室とTNVNで調査して新たに分かった教室を加えて304団体に調査票を発送し、197団体(245教室)から回答を得ました。各団体・教室の内容は冊子「ボランティア日本語教室ガイド2018東京」をご覧ください。

合わせて行った日本語ボランティア実態調査は

- ①ボランティア日本語教室の実態(184団体・教室)
- ②活動しているボランティア個人の活動と意見(334名)
- ③教室で日本語を学習している学習者個人(320名)にアンケートの回答を戴きました。[( )内数は回答数]

以下「調査報告書・日本語ボランティア活動実態調査」から一部抜粋し2回にわけて紹介します。[今回①、次回②、③]

日本語ボランティア活動は地域の多文化共生社会実現に大きな役割を果たしています。

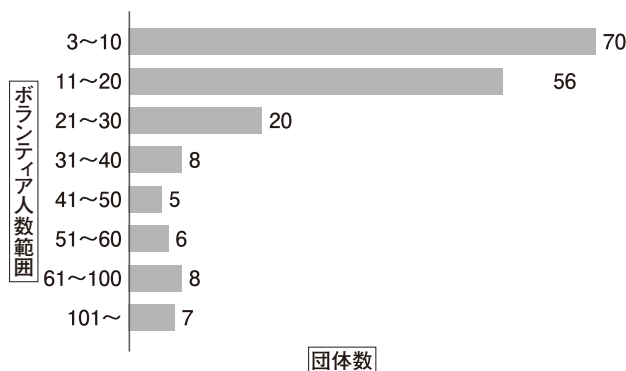
今回の調査から、ボランティア日本語教室はいろいろな課題を抱えて活動している状況が分かります。行政・関係機関の理解ある支援と協力を得て活動し、日本語学習支援を望む方々が一人でも多く、学習の場が得られるよう強く望んでいます。

### 1 ボランティア日本語教室の実情

#### (1) ボランティア教室のボランティア人数

1つの団体・教室で活動しているボランティアの人数は全体的に30名以下です。3～10名の少人数の小規模教室が全体の4割を占め、7割が20名以下で、地域の学習支援の場を支えています。

ボランティア人数と団体数(180団体)



#### (2) ボランティアの高齢化

##### ①人数割合

高齢化社会の状況は日本語ボランティアも例外ではありません。

70歳以上の方々が全体の1/4、60歳代が4割で、30歳代の若手は1割にもなりません。

若手が活動できる場づくりが望まれます。

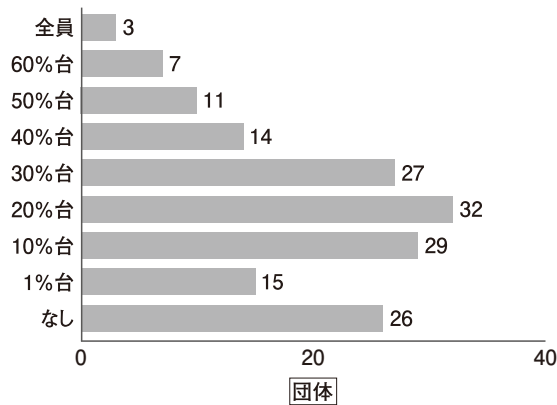
年齢範囲	人数	比率
70代以上	808	23.8%
60代	1,366	40.1%
40～50代	861	25.3%
30代	299	8.8%
20代	70	2.0%
総数	3,404	

### ②教室における70歳以上の割合

教室で学習者の支援に当たっているボランティアの年齢を世代別で見ると、全員が70歳以上の教室が3教室、60%台の教室が7教室あります。全体的に見ると2割前後の教室が最も多い状況です。

ここからも70歳以上の方々が現役で学習者を支援しています。

70歳以上の割合



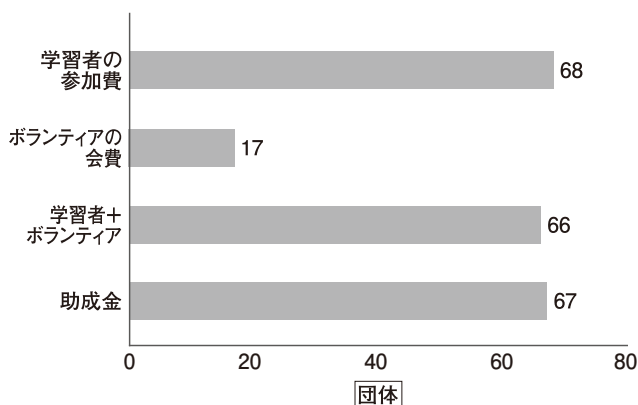
### (3) 活動資金はどの様にして得ているか。

教室運営上で会場費・教材費等の活動資金をどの様に確保しているかを見ると、行政からの助成金を受けている団体が3割、学習者の参加費とボランティア・学習者両方からの会費・参加費がそれぞれ同様に3割となっています。

しかもボランティアの会費だけで運営している団体が約1割で、4割強はボランティアが教室の運営費を出しています。

複数の行政・自治体が助成金支給しボランティア活動を資金面で支えています。

活動資金の確保



### (4) 会場の確保

人材・活動資金と取り上げましたが教室運営で最も大変なのが会場の確保です。

日本語ボランティア活動への理解が不十分で公共施設では一般の趣味講座等と同一扱いされています。年間/優先登録で場所を確保出来ている教室は6割に留まっています。

	団体数	割合
年間/優先登録	109	60%
常時予約	20	11%
抽選	52	29%

日本語を母語としない人達が安心して生活をして行くには日本語での会話力の向上が不可欠です。この方々を支援しているボランティア日本語教室は会場が安定して確保出来るよう願っています。

### (5) どの国からの学習者がいますか (国籍が多い順位)

近年世界各地から様々な目的を持って来日する人が増加し、変化しています。

その傾向はボランティア日本語教室にも大きく影響しています。

学習者の国籍も様々で世界経済や国家間の関係にも依り変化しています。

各教室に来る学習者の国籍も変化しています。

国籍の多い順に回答を貰いました。

- ①中国籍の人が最も多いと挙げた教室は135団体 (7割)
- ②ベトナム・韓国籍の人が最も多い教室は各々10、11団体です。
- ③韓国籍の人がかなり減少し教室の様相が変化していません。

第1位	団体数
中国	135
ベトナム	11
韓国	10
フィリピン	8
ネパール	6
台湾	5
その他	15



# 「日本語のキマリと 学習者に必要な日本語」

## その1

日本語教師 金子広幸

紙上  
講座

私たち日本語母語話者には「日本語はこうあらなければならない」という感覚があります。文法だったり、言葉の使い方だったりしますが、今日はこれをキマリと呼ぶことにします。

このニュースレターをお読みの皆さんもこのキマリにはうるさい方だとお見受けします。今日は我々「キマリにうるさい人」を「ウルサガタ」と呼ぶことにしましょう。

そして、我らウルサガタが日ごろから気になっていることを書き出してみることにしました。きっとウンウンと頷きながら読んでくださることでしょう。

### ////// うちのおかあさんが~ ////

テレビに出て来るタレントさん、自分の家族のことを話すのに「うちのお母さんが~」と連呼しています。「ここは『母が』というべきだろ！」とウルサガタの私は突っ込んだりするわけですが、テレビには届かないそのもどかしさ、おじさんのタワゴトとして終わります。

最近では、若いタレント・俳優はほとんどこの状態で、テレビのコマー

シャルに出て来る有名テニス選手、60代の往年の名優さえ「僕のおかあさん」と言っています。

いったい自分の母親をいつから「おかあさん」と公の場所でも言うようになったのか、最近ではむしろキマリどおり「母」と呼べる人の方が少数派です。

私の目の前で、もっとすごいことが起こりました。日本人の大学生が、話し相手の留学生の母親のことを指して「ちょうさんの母はどんな仕事をなさっていますか」などと聞いていて、その留学生にあきれられていたのです。

どうしてこうなったのでしょうか。意地悪おじさん金子はあとでそっと聞いてみました。この日本人大学生、『「母」は(改まった場所で使うから)敬語だ』と思っていたようで、人の女親を「母」と呼ぶのだと信じ込んでいたのです。自分の親は「おかあさん」と呼ぶのだから、と。

ウチソトの感覚がまるで抜け落ちていることがわかりました。

ただ、実は抵抗勢力がいるということも、私は見逃していません。誰かがテレビなどで発言すると、それに対する反応がツイッターなどで見られます。「この人は自分の母親のことを「お母さん」と言っている。子供みたい! 変だよな!」という書き込みです。つまり抵抗勢力としての「ウルサガタ」がどこかにはいるとい

うわけです。

私の周囲の人を見ると、「全く気にしていない人」と「気にする人」のグループは二つに別れているように思われます。

これは、ウチソトの感覚の崩壊なのでしょう。

これとは少し違いますが、ウルサガタを泣かせるものに、こんな例もあります。

### ////// 出沒いたします ////

それは、私のクラスの院生が見つけた、女子トイレに貼られたポスターの文言です。

「ここには変質者が出沒いたします。気をつけてください」

と書いてあるのです。私の院のクラスの優秀な日本語研究者の卵たちは涙を流して笑っていました。

え? 読者のみなさんの中にもそれほどの抵抗がない人がいる? ...そうかもしれませんね。これも「表現全体が丁寧になっているならいい」と感じる人が最近増えているからだと思います。話者が自分が話している内容を「上品なものにするために」、ちょっと敬意の方向を変えて、聞き手や読み手に対して、もともと尊敬語・謙譲語だったものを、使っているんですね。

この例は爆笑でしたが、ウルサガ

タもちょっと黙ってしまう例があります。

日本人の大学生と二人で食事をして、1万円札を渡しレジでの会計を頼んだら、彼が「お釣りをいただきます」と言ったのです。もちろん彼は、「(お店の人に) いただきます」のもりだったので、私は思わず「君にはあげないよ」と言ってしまう。彼は「金子に対して使う表現は全てでいいに選んで」という心づもりで言ってくれたので、私は「お釣りは彼が(私から) もらってしまう」と考えたのです。つまり、私は本来的な敬語の体系の中で捉え、彼は派生的な敬語の用法の中で使っていたのです。

この大学生の発言については、あちこちで聞いてみたのですが、反応にはかなりの揺れがあり、女性ほとんど抵抗なく、この大学生と同じ使い方をすると答えていました。

ね？ウルサガタもちょっと反論しにくいでしょう？

#### ////////// いただいでください //////////

東京一の高級デパートでも「どうぞ～、試食がいただけますよ。いただいでください！」と呼び声も高く、超有名高級和菓子売っているのをつい先週耳にしました。「ご試食いただけますよ(以前本欄で書いたのですが、「ご試食になれます」よりは「上から目線度」低めの表現です)」と混同したのかもしれませんがね。

ここでも謙譲語に類された「いただく」の本来の用法は忘れられてしまっているようです。

#### ////////// 結婚させていただきます //////////

そして、昔から取りざたされるの

が、「させていただきます」です。ブログにはあちこちで見受けられます。

「このたび結婚させていただくことになりました」(誰か強硬に反対した人がいる??)

「これで発表を終わらせていただきます」(終わっちゃダメ！と言う人がどこかにいる?)

さらにここには「サイレ言葉」と言う現象があって、「終わら「さ」させていただきます」などと言う人もいて、ますますウルサガタは混乱です！

ここでなぜ周囲の許可を意識しなければならぬのか、ウルサガタは問いたいでしょうが、これは本当に様々な年代に使われています。

#### ////////// 僕お幸せだな～ //////////

先ほど、「僕のおかあさん」の話をしました。昭和30年代生まれの私の世代では、外に対して「母」と言うのでさえ気恥ずかしく、「おふくる」などと言ったりしました。東京の池袋育ちだと「中学生になったら「僕」なんて使うな！子供っばい！」と言われていたので、私は「僕」はどの場面でも一切使っていません。でも、私よりちょっと上の全共闘世代の？男性は、公の場所でもよく「僕」と使っていたらっしゃいますね。これはどうしたことでしょう。個人の語感の違いでしょうか。オクサマのお尻の下で生活するボクが私には見えます。

#### ////////// 金子さんはうちではよくゴロゴロしているんだそう! //////////

最近気になって仕方がないのは「だそう。」です。文字になってみると何だ??となりますが、情報番組で何か伝達する場面で、本来は「～(だ) そうだ」「～(だ) そうです」とつなぐ伝聞の表現を使うべきところを、

「よく本を読んでいるんだそう！」と切り切る形です。本当は「～とのこと。」と締めくくってもいいのですが、これだと少々丁寧すぎて、カジュアルな雰囲気には似合わないのかもしれないですね。受信料で運営されるN●Kではさすがに使わないかな、と思いきや、この1年でしっかり使うようになりました。

#### ////////// これはやばい! //////////

何と言っても、ウルサガタから攻撃されるのが「やばい」です。

私は最初は刑事ドラマの「やばい！サツだ！ずらかろう」あたりから覚えたのですが、最近の大学生たちは、おいしいものを食べても「やばい！」、感動した映画を見ても「やばい！」。これではウルサガタはたまりません。

挙げだしたらキリがありませんね…。大人の世界の求めるものは確かに歴然とあります。でも反面、それをゆるく包もうとする考え方も日本語教育の場では必要だと感じます。次号では金子的那覇での気づきと、その「ゆるい包み」をお届けします。





## nice to meet you

■学校や会社でも困らない「きれいな日本語」、日本のマナーも伝え、教えることを心がけています。

# NPO 法人 IWC 国際市民の会 (品川区)

理事(広報・渉外担当)仁村 議子

会の名称の「IWC」はInteract With Communityの略です。

国籍・性別・年齢・職業・人種・宗教に関係なく、みんなで気持ちよく暮らしましょう、不都合があれば一緒に解決しましょう、という地域に根付いた交流と共生の思いを込めています。

この活動理念のもと、「IWCの日本語教室」では、日常生活はもちろん、学校や会社でも困らない「きれいな日本語」に併せて、日本のマナーも伝え、教えることを心がけています。

今から35年前、創設者の伊藤美里氏が、港区ユネスコの外国人女性たちから「地域の人々と親しくなりたい」と、生活に密着した日本語の指導を要請され、友人と港区の施設を借りて「実践的な日本語教室」を始めたのがルーツです。

現在は、活動拠点として大井町線「戸越公園」駅近くの一軒家を借り、



JSL 授業風景

- ①成人を対象とした(月)~(木)「毎日午前クラス」と「毎日1時クラス」、「土曜クラス」
- ②日本の高校受験を目指す人を支援する「高校入試支援教室」
- ③中学生の学習を支援する「補習教室」、計5つの教室を開いています。そして、「IWCの日本語教室」のもう一つの大きな柱として、
- ④品川区立山中小学校の空き教室をお借りして、小・中学校に通う「日本語を母語としない子供たち」を対象に「JSL I」(日本語をひらがなの読み書きから指導)と、「JSL II」(学校の教科書に沿って学科の勉強などをフォロー)を開いています。「JSL」は品川区教育委員会の委託事業です。

2018年1月現在、学習者は成人クラス41名、高校入学支援教室8名、補習教室3名、JSL Iに13名、IIに28名、総勢93

名です。学習者の出身地は、中国・香港・台湾・韓国・フィリピン・タイ・インドネシア・ベトナム・ネパール・インド・コンゴ・エジプト・モロッコ・イギリス・フランス・アメリカ、と様々です。

また、毎年フランスやイタリアの大学生、大学院生の短期研修を受け入れ、日本語学習はもとより、近隣の大学や高校との文化交流も行っています。

学習者以外のボランティア登録会員は66名、その内57名が日本語の先生です。

「きれいな日本語」の習得をサポートするために、IWCでは「外国語としての日本語」を指導するノウハウを習得した方に、日本語教師としての活動をお願いしています。日本語指導法の学習経験がない方のためには、「日本語教師 (IWC) 入門養成講座」も開講しています。みなさま、どうかお気軽にIWCをお訪ねください。

## 会員団体紹介

# Nice to Meet You

皆さん、こんにちは。

わたしたちは、一昨年の10月から日本語教室を始めました。日本語教師養成校で同期の仲間3人が発起人になり始めた教室です。名称は「柳」を苗字にもつ2人の参加者に因んでウィロローズとつけました。

場所は地下鉄東西線の東陽町です。仲間の2人が江東区に住んでいたこと、私にとっても生まれ育った墨田区の隣で馴染みがあったのでここを選びました。

この地域は旧名深川といい隅田川と荒川に挟まれた小さな河川が多かった地域で、古くから河川を利用した生業があり、嘗ての木場は材木の集積地として有名です。東京の下町としての風情と人情が残る地域です。

## nice to meet you

■コミュニケーションを重視して言葉とともに日本に関する一般的な知識の学習を！！

# ウィロローズ・コミュニケーション (江東区)

かなり前からこの地域に住む外国人が増えだし、毎年増え続けています。現在は27千人を超える人たちが江東区に住んでいます。(東京都全体の傾向と同様です)

教室はクラスが初級I・II、中・上級の3レベルあり、4~6名程度を1クラスとして、先生が5人、生徒が在籍15人程度の小さな教室です。在籍者は中国人と主婦が多い構成で、初級・中級の各レベルに人が適度に分かれています。(目下、中級は担当講師が休みで休講中) 授業はコミュニケーションを重視して言葉とともに日本に関する一般的な知識の学習にも注力しています。教室へ

来れない方、海外の学習希望者へskypeを使った授業にもチャレンジしています。ご興味のある方は連絡ください。<http://lang.sakuratan.com/willows/>

写真は「浴衣の試着」と「お好み焼きパーティ」をした際のもので。



浴衣を試着



お好み焼きパーティ

学習者の声

日本の驚くべきこと

ベルドイザベル

／オーストラリアンフレンチ

町田日本語の会(町田市)



「私の名前はイザベルです。町田市玉川学園に住んでいて玉川学園の英語の先生です。2017年2月から日本語を勉強し始めました。漢字は難しいですが、以前中国語を勉強したので漢字は面白いです。カタカナや文字・単語・文章を覚えることは大変です。自分の記憶力が悪くなってきているので練習しても忘れてしまうことが多いのですが、頑張っています。

日本に住んで驚いたことは、プレゼント包装をする店員の技術の高さ。コンビニや自動販売機がどこにでもあること。自分の座席を確保するために鞆や荷物を置いても盗られないこと。日本は色々な場面で安全を感じる事が多いです。また、バーやレストラン、学校のキャンパスで喫煙をしていること。日本の煙草は値段が安いので止めようと思わないのではないのでしょうか。

そして「納豆」という発酵食品の奇妙な質感と味など「日本食」といえば寿司・天ぷら・ラーメンですが、外国にはない日本食を食べられることは良かったと思います。

ボランティアの声

磯直子

町田日本語の会(町田市)

「1年経験して気がついた事」

「日本語を教える仕事をしたい。」と思うようになったのは、33年勤めた会社を辞めしばらく海外旅行などを行っている時でした。「自分の国の事なのに何も知らない。」日本を知りたいと同時に日本語にも興味がわきました。そして現在はボランティアとして大人に週4回と子供に週1回、日本語学校で週2回留学生に教えています。

学習者の目的は様々で、努力の仕方も様々。どうして?何で?と思う度に、自分が「やれば出来るのにやろうとしない。」と学生時代に先生に言われたことや「外国人がいないから覚える必要がない。」などと屁理屈を言って困らせた事を思い出します。

初めて担当したのは去年の2月。日本語入門者の方々でした。今回ここで紹介されているオーストラリアのイザベルさん、スペイン、メキシコの女性達3名。まずは挨拶から覚えてもらおうと張り切って頑張ったのですが、クラスが終わって「お疲れ様でした。」と言うと「…」3人が3人ともポカンとしています。つたない英語で一生懸命説明して、あれだけ復唱練習したのに何で?と。次回はもっと身に付くようにやり方を変えないといけないんだと反省していたのですが、3人が「センセイ、サヨナラ!」と日本語で楽しそうに言って帰って行く姿を見て、とても嬉しくなりました。そうだ!とにかく日本語に興味があって来てくれたんだから、楽しく続けてもらうことが何よりも大切なんだと心がけて続けていましたが、日が経つにつれと段々と…。仕事でもプライベートでも全く日本語を使わないことが原因で先週やったことを忘れてしまっているのです。

復習しても思い出せない。これには参りました。また、話すだけではなく書く事も覚えてもらおうとしたら「書くのはイヤ。嫌い。書きたくない!」きれいな字を書いたのにそれ以来こなくなってしまった人もいてガックリしながら帰った事を覚えています。

しかし、落ち込んだまま学習者との関係を続けた事がないというのは支援者の先輩方の助けがとても大きいと思います。私の話を聞いてくださりご自分の経験談を話して下さるので、正直に考えていることや感じた気持ちを言うことが出来ますし気持ちが沈んだ時は特に、いつも周りに頼れる先輩方がいるというのはとても心強く幸運な事だと思います。

学習者にとっても「日本語の会」に通うということは勉強だけではなく、自国の人の情報交換の場であったり、生活の悩みを聞いてもらえるという大切な場所のようです。私にとっての支援者の先輩方のような存在が、同じ教室の中にいるので安心できるのかもしれませんが。

覚えてもらおうと先を急ぐよりも、周りの景色を眺めながら学習者と一緒に「日本語の旅」をする。少しゆったりとした気持ちで私もボランティアを続けていこうと思っています。

いつかみんなが日本の国を思い出した時、私と笑いながら日本語を話していた事を懐かしく感じてくれたら最高かもしれません。





TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時  
第5金曜日／休み

#### ◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口B2b)飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

#### ◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

#### ◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名:東京日本語ボランティア・ネットワーク

#### ◆会員数 (2018年1月31日現在)

正会員：88団体

個人協力会員：14名

賛助会員：3団体

◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 真理

◆レイアウト／美巧社

### ●冊子「ボランティア日本語教室ガイド2018東京」を発行しました。

東京都に助成申請した「ボランティア日本語教室ガイド2018東京」及び「日本語ボランティア活動実態調査・報告書」作成の交付が昨年の8月に決定されました。

早速TNVNスタッフは「ガイド」作成のための作業を開始、都内ボランティア日本語教室の調査を根気強く行い、304団体・教室に調査票を発送、最終的に都内で活動している197団体(245教室)から回答を得ました。教室案内はこれまで通りの書式としました。巻末に掲載していました、「日本語ボランティア活動で参考となる情報」欄は、

昨今のインターネットの普及で各人が必要な情報を検索し調べる事が容易となりましたので割愛しました。

日本の社会で安心して生活が出来るよう、日本語を学びたい人への学習の場を紹介するために「ガイド」を発行しています。

是非、外国人の相談窓口となる行政・自治体、地域の国際交流協会やその他の諸機関でご活用されるよう望んでいます。

もちろん、ボランティア日本語教室で学習者が他の教室でも学習したいという希望がありましたら「ガイド」から調べ紹介して下さい。

### ●合わせて「調査報告書日本語ボランティア活動実態調査」も発行しました。

「ガイド」発行の調査と合わせて表記のアンケート調査を行いました。184教室、334名のボランティア、320名の学習者から貴重なデータと回答・

意見を戴きました。多数の意見・感想を戴きましたが、紙面の都合上、幾つかの意見・感想を代表して掲載しました。

### ●おめでとうございます

#### JCA(日本語教室)千歳船橋グループ・玉川グループが平成29年度の「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞・特別賞」を受賞されました。

表彰の取り組み詳細は

- ・日本語教室運営を通じた地域の外国人の生活支援を33年にわたり行い、世田谷区内に14教室を展開
- ・語学教室のほか、相談対応・防災

教室なども実施

- ・「日本語教え方教室」により、ボランティアのスキル向上にも取り組む
- 多文化共生社会の推進に向けて日本語学習支援に今後とも御活躍下さい。

#### ◆新会員紹介 文京日本語交流員の会・シビック日本語(文京区)

## Column

### 六歳児の日本語

孫(6歳)の日本語は、私の英語などよりずっーと上級です。「レストランごっこ」が大好きで、雨降りの日など私が客になって遊びます。「いらしゃいませ。ご注文は」とか「ちょっとお待ちください」とか、接客会話も立派なものです。「それは、売り切れしました」など、「これ、それ、あれ」の使い分けも完璧です。「ママに行かされた」と、使役受け身形も使えます。

中国からきた6歳児に「小学校入学前の日本語指導」を2か月間だけしましたが、外国語で学習することの困難さが想像できます。「文字が読めない・書けないレベル以外の難

しさ」があります。

まず、語彙が圧倒的に足りません。日本独特の学校文化に戸惑うことも多いようです。

孫の語彙はまだ子供の領域ですが、難しい言葉も、分かり易く説明すればすぐ理解します。色々な文型、表現が身についています。先生が子供のレベルに合わせて授業を進めていけば、どんどん知識などが身につくでしょう。そんな日本の子供たちと一緒に授業を受けなければならない外国籍の子どもたちに、適切な支援の手をさらに差し伸べてもらいたいと行政に望みますし、私も力になりたいと思っています。(O.M)